

総合的な探究の時間における ESD 授業案

神奈川県立有馬高等学校

総括教諭 杉原 孝治

1 活動名 世界を知り世界に触れる SDGs 教育

2 生徒の姿と読み取り

- ・海外への関心は高まっているが、実体験が乏しく内向的な傾向
- ・環境・社会課題に興味を持ち始めているが、言語や文化の壁に不安あり
- ・自分の考えを他者に発信する経験が少なく、対話力・協働力に課題あり

3 目指す生徒の姿

- ・異文化理解力や多様性への寛容性を育む
- ・英語・日本語の両言語での発信力とコミュニケーション能力を高める
- ・SDGs 課題を他国と比較しながら探究する視点を持つ
- ・自国の文化の深化及び、自国の強みを認識し、世界と自国の比較し自国の理解を深める

4 活動のねらい

- ・海外との接点を通して、「持続可能な社会」に必要な価値観と知識を深める
- ・対話的・協働的な学びを通じて、グローバル市民としての素養を育む

5

	観点①（知識・技能）	観点②（思考・表現）	観点③（主体）
評価項目	・SDGs に関する知識と活用	・課題の多角的考察と発信 ・表現力・伝達力	・協働的態度
評価規準	・SDGs の各目標や背景について理解し、テーマ活動に適用できている	・SDGs 課題を比較・分析し、自分の考えを整理して発表に活かしている	・他者と協力しながら課題に取り組み、役割を果たしている
具体例	・台湾・ネパールの社会課題と SDGs との関連を説明できる	・フードロスの原因と対策を両国比較し提案できている ・言語支援を活かし、英語/日本語で発信できている	・国内で自身が可能な脱炭素社会の提案をグループ内で協力してまとめた

6 環境構成

・活動の設定理由

台湾は地理的・文化的に近いが、認識や理解はまだ浅い。コロナ禍以降、オンライン交流が可能となった今、実際の相互理解につなげる好機であるため。

・教材について

SDGs 基礎教材（環境・社会・経済）、台湾文化紹介動画・資料

・展開の工夫

プレ交流 : 台湾の高校生と繋がるためのリサーチ活動

本交流 : Meet を活用したグループ交流 (テーマ例: 食文化、学校生活、環境活動)

ポスト交流 : 台湾の生徒に向けたまとめ発表と動画メッセージ作成

7 ESD との関連

・養いたい ESD の視点

相互依存性: 国際社会における課題が互いに繋がっていることを理解する

多様性の理解: 台湾と日本の文化や価値観の違いを受け入れる

・育てたい資質能力

異文化間のコミュニケーション能力

グローバルな課題に対して自分で考え、行動する主体性

・育てたい価値観

共感・寛容・協働、公正・持続可能性への意識

8 具体的な実施例

対象	1 学年
人数	8 クラス (各 40 名) 合計 320 名
実施時間	総合的な探究の時間 (1 単位)

今年度の 10 のテーマ

フードロス、環境問題、健康とスポーツ、途上国の課題、地域における SDGs の取組の違い、寺子屋リーフレット活動を通して、防災と街づくり、バリアフリー、脱炭素社会、働くとは

【事前準備: 第 1 回授業までに】

8-1. テーマ提示と希望調査 (生徒)

- 教員が 10 のテーマをスライドで紹介
- 生徒は Google フォームで第 1~第 5 希望を提出

8-2. 班編成 (担任)

- フォーム結果をもとに、希望を考慮しつつ 4 人班を編成 (人間関係・男女比も配慮)
- 各クラスで 10 班×8 クラス=合計 80 班を作成

8-3. 教室・教員配置 (学年団)

- 同じテーマの班を 1 つの教室に集約 (テーマ別に 10 教室)
- 教員は希望するテーマを担当 (自主選択)

【授業展開：第1回～第6回】

8-4. 第1回：テーマ理解とSDGs導入

- SDGsと10テーマの概要を再確認
- 各班でテーマの目的や関心を共有

8-5. 第2回：課題リサーチ活動

- 日本と相手国の社会背景・文化・課題を調査
- 比較検討を通して課題の本質を探る

8-6. 第3回：交流準備・アクションプラン①

(例)「途上国の課題」「地域におけるSDGsの取組の違い」の場合

- オンライン交流に向けた資料作成(文化紹介・課題提案)
- 英語/日本語での表現練習
- SDGsに関するアクションプランを構想

8-7. 第4回：オンライン交流・アクションプラン②

(例)「途上国の課題」「地域におけるSDGsの取組の違い」の場合

- 台湾：文化紹介とSDGs課題の意見交換
- ネパール：日本語体験授業と質疑応答
- 交流を踏まえてアクションプランをブラッシュアップ

8-8. 第5回：まとめと提案準備

- 探究成果・提案・メッセージをスライドにまとめる
- 発表練習と表現の工夫

8-9. 第6回：プレゼン・振り返り・今後の展望

- 全体発表・相互評価
- 自己変容の振り返り記録
- 地域・学校への提案や今後のアクションを考える

【発展活動】

8-10. SDGs みらい甲子園への参加

- 公式HPを読み、班代表が登録
- 各テーマに沿ったアクションプランを提出

8-11. 体験・講座の実施(適宜)

- テーマに応じて外部講師や体験活動を設定
例：ネパール日本語講師体験、台湾交流、市役所職員の講話など

8-12. 評価と振り返り

- ルーブリックを用いたスライド発表評価
- 自己評価・他者評価・教員評価を実施
- 個人レポートと他国生徒からのフィードバックを活用し、学びを言語化

9 成果と課題

成果例：異文化理解が進み、生徒の視野が広がった、英語での発信力・自己表現力の向上

課題例：オンライン交流の技術面の課題、時間調整・交流深度のバランス

10 カリキュラムマネジメントとして

英語・国語：プレゼン力・発信力育成

地歴公民：社会課題への理解促進

ICT：情報収集・オンライン交流技術

キャリア教育：主体的進路意識の形成